

今、わたしたちにできることは

～差別することで不安が解消する、感染リスクが減ることは一切ありません～

令和3年1月20日

新型コロナウイルスによる感染症がさらなる広がりを見せており、保護者のみなさまにおかれましても不安をおもちの方も多数おられることと存じます。

そういったなか、子どもたちは、学校で新型コロナウイルス感染症の正しい知識を学んだり、もしも身近なだれかが感染した時に、どんな言葉かけや行動をするべきなのかを話し合ったりと身体も心も新型コロナウイルスに負けないための学習を進めています。

このような子どもたちの学びに対し、保護者として何ができるのでしょうか？
今、わたしたち保護者にできることは、以上のような子どもたちの学びを無駄にしないために、よき手本となる言動をすることです。

そこで、保護者のみなさまに次のことをお願いいたします。

◎ **だれもが感染する・感染させる可能性があるのだから、感染者に対する差別、偏見、誹謗中傷をしないでください。**

だれもが感染する・感染させる可能性があるのですから、感染した児童生徒や教職員、学校の体制を責めるのではなく、感染者が余計な心配をせずに治療に専念でき、快復した人を快く迎えられる学校や地域にしていくことが大切です。

◎ **「やめようよ！」と声をあげてください。**

自分が差別等をしないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定（感染者さがし）をして非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動（噂話・SNSでの書き込み等も含む）があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。

感染症への取組は長期にわたることが想定されます。こんな時だからこそ、保護者と学校がチームとなり、子どもたちの健康と心の成長を見守っていくことが必要です。まだまだ対策を講じながら過ごす日々となりますが、何卒御理解のうえ、御対応・御協力をお願いいたします。

高松市PTA連絡協議会 会長 山田 士郎
高松市立一宮中学校PTA会長 榎本 公一